

## 第2回多様な学びの在り方検討部会での委員意見（委員別）

委員名	意見
田端 健人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用で、セルフスタディに任せられる部分は任せて、その分の教員のマンパワーを生徒を支えることに使うこともできる。そうなれば求められる教師像も変わってくる。</li> <li>・学校で世代も価値観も違う人と交流することは重要である。</li> <li>・「新たなタイプの学校」で掲げる手法を展開するには、新しい施設を作ること、ノマド的に必要とされる機能を様々な学校で機動的に展開させること、既存の学校内にそのようなスペースを設けることなど様々な可能性がある。</li> <li>・「学習支援員」に関しては学生を活用しても良い。</li> <li>・社会のあり様や市民の高校の学びに対する見方を揺さぶり、学びは単線系だけではないと認識が変わることも大事である。</li> <li>・離職率の高さから進路は、そこに就職してどう人生を歩んでいくのかということを視野に入れる必要がある。</li> </ul>
菊地 直子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新たなタイプの学校」ではどのような生徒をターゲットとし、また学力試験は課すのかを整理すべきである。</li> <li>・適応支援学級に通っている生徒を引き続き支援していける仕組みが必要である。</li> </ul>
石川 俊樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田県の明德館高校には、フリースクールまたはプレスクールのような形で、不登校の小学生や中学生を受け入れて、学び直し等を行って、高校につなげているという取り組みをしている。明德館高校は単位制定時制高校でもあり、通信制高校でもある。</li> </ul>
伊藤 宣子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今ある定時制、通信制もそのまま「新たなタイプの学校」を作るのか、疑問である。</li> <li>・長期入院の生徒に対する学習機会の提供が必要である。</li> <li>・新たなタイプの学校のコンセプトに「社会的自立に必要な能力を持った生徒の育成」とあるが、学ぶことに困難さを抱えた生徒を受け入れられる社会の体制づくりというの必要ではないか。</li> <li>・少人数ということに関しては、教育投資として相当かかる。</li> <li>・生徒のケアという点では医療機関と学校との連携が重要であるが、そのためには医療機関の理解・協力が不可欠である。</li> <li>・保護者にも様々な面で正しい情報を提供することは重要である。</li> <li>・ニーズを把握するには、不登校、発達障害、特別支援学級に在籍していた生徒数を把握すべきである。</li> </ul>
小林 裕介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なニーズに応える学校づくりとあるが、ニーズとしてどの範囲まで考えるべきなのか、整理すべきである。</li> <li>・単位制で、例えば1つの科目でも習熟度に応じた授業がいくつか設けられていて、生徒が自分に合ったものを履修し、さらに学校でも、通信でも学習できるのが理想である。</li> </ul>
鈴木 一史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城を「新しいタイプの学校」のモデル地区として発展させるならば、経費や人的配置をどう工夫できるか検討すべきである。</li> </ul>

第2回多様な学びの在り方検討部会での委員意見（キーワード別）

意見	委員名
<b>① 【検討テーマ】に関すること</b>	
・社会のあり様や市民の高校の学びに対する見方を揺さぶり、学びは単線系だけではないと認識が変わることも大事である。	田端部会長
・保護者にも様々な面で正しい情報を提供することは重要である。	伊藤委員
・ニーズを把握するには、不登校、発達障害、特別支援学級に在籍していた生徒数を把握すべきである。	伊藤委員
・様々なニーズに応える学校づくりとあるが、ニーズとしてどの範囲まで考えるべきなのか、整理すべきである。	小林委員
<b>② 【コンセプト】に関すること</b>	
・「新たなタイプの学校」ではどのような生徒をターゲットとし、また学力試験は課すのかを整理すべきである。	菊地副部会長
・長期入院の生徒に対する学習機会の提供が必要である。	伊藤委員
・新たなタイプの学校のコンセプトに「社会的自立に必要な能力を持った生徒の育成」とあるが、学ぶことに困難を抱えた生徒を受け入れられる社会の体制づくりというのも必要ではないか。	伊藤委員
<b>③ 【手法：確かな学力を身に付けるための基礎学力の定着】に関すること</b>	
・「学習支援員」に関しては学生を活用しても良い。	田端部会長
・少人数ということに関しては、教育投資として相当かかる。	伊藤委員
<b>④ 【手法：相談体制の整備】に関すること</b>	
・生徒のケアという点では医療機関と学校との連携が重要であるが、そのためには医療機関の理解・協力が不可欠である。	伊藤委員
<b>⑤ 【手法：体験的な学びを通じた明確な勤労観・職業観の育成】に関すること</b>	
・離職率の高さから、進路はそこに就職してどう人生を歩んでいくのかということを視野に入れる必要がある。	田端部会長
<b>⑥ 【手法：学び方の多様化】に関すること</b>	
・ICTの活用で、セルフスタディに任せられる部分は任せて、その分の教員のマンパワーを生徒を支えることに使うこともできる。そうなれば求められる教師像も変わってくる。	田端部会長
・単位制で、例えば1つの科目でも習熟度に応じた授業がいくつか設けられていて、生徒が自分に合ったものを履修し、さらに学校でも、通信でも学習できるのが理想である。	小林委員
<b>⑦ 【実施方法】に関すること</b>	
・「新たなタイプの学校」で掲げる手法を展開するには、新しい施設を作ること、ノマド的に必要とされる機能を様々な学校で機動的に展開させること、既存の学校内にそのようなスペースを設けることなど様々な可能性がある。	田端部会長
・宮城を「新しいタイプの学校」のモデル地区として発展させるならば、経費や人的配置をどう工夫できるか検討する必要がある。	鈴木委員

意見	委員名
⑧ その他	
・ 学校で世代も価値観も違う人と交流することは重要である。	田端部会長
・ 適応支援学級に通っている生徒を引き続き支援していける仕組みが必要である。	菊地副部会長
・ 秋田県の明德館高校には、フリースクールまたはプレスクールのような形で、不登校の小学生や中学生を受け入れて、学び直し等を行って、高校につなげているという取り組みをしている。明德館高校は単位制定時制高校でもあり、通信制高校でもある。	石川委員
・ 今ある定時制、通信制もそのまま「新たなタイプの学校」を作るのか、疑問である。	伊藤委員